

## はじめに

公認会計士・監査審査会（以下、「審査会」という。）は、米国等における一連の不正会計事件による会計不信の世界的な高まりを背景に、欧米での監査監督機関の設立と併行して、平成 16 年 4 月、独立して職権を行使する機関として金融庁に設置されました。その発足以来、公認会計士監査の品質の向上を図り、その信頼性を確保することにより、我が国資本市場の公正性と透明性を高めることを使命として、投資者の資本市場に対する信頼の向上等に取り組んできました。

こうした中、審査会は、平成 25 年 4 月から第 4 期目（平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月）に入り、新たな体制で活動を開始しております。審査会発足から 10 年目を迎えた平成 25 年度においては、監査事務所における監査業務の適切性の確保により会計・監査の質の向上を図るため、日本公認会計士協会（以下、「協会」という。）による品質管理レビューに対する審査及び検査のより効果的かつ効率的な実施を図ったほか、職業的専門家を輩出する公認会計士試験に多様な人々が挑戦していただくことを促すため、試験結果に係る開示項目の拡大などによる受験者への情報発信の充実や公認会計士試験の円滑な実施に取り組むなど、これまで築き上げてきた実績を踏まえつつ、着実な業務の遂行に努めました。

### 1. 本年度を振り返って

審査及び検査については、第 4 期における「審査及び検査の基本方針」及び「平成 25 年度の審査基本計画及び検査基本計画」に基づき、監査事務所に対して報告徴収や検査を実施し、当該検査の結果、1 監査法人に対し、行政処分その他の措置を講ずるよう金融庁長官に対し勧告しました。そして、最近の検査で確認された事例等を踏まえ、監査事務所における品質管理上の問題点や審査会としての期待水準等を記載した「監査事務所検査結果事例集」を作成・公表し、協会や同地域会、証券取引所等において、公認会計士、監査役、上場会社役員等に対する講演を実施しました。さらに、検査等で把握した業界横断的な問題点等について、協会や金融庁の関係部局、証券取引所等の市場関係者との間で積極的な意見交換を行うなど、情報発信にも努めました。また、審査会として初めてとなる海外所在の監査事務所に対する検査を実施するため、態勢整備に取り組みました。

公認会計士試験については、平成 25 年 5 月（平成 25 年第Ⅱ回短答式）、平成 25 年 8 月（論文式）、平成 25 年 12 月（平成 26 年第Ⅰ回短答式）に各試験を実施したほか、多様な人々が試験に挑戦することを促す観点から、大学を中心に公認会計士の使命等をテーマとした講演を行うなど学生を対象とした啓蒙にも努めました。

諸外国の関係機関との協力については、平成 25 年 4 月に開催された第 13 回監査監督機関国際フォーラム（IFIAR（イフィアール）：International Forum of Independent Audit Regulators）会合（オランダ ノールドワイク開催）に参加しました。ノールドワイク会合では、新しいオフィサー（議

長・副議長)の選任や今後の業務計画の合意、日本が初めて IFIAR ワーキング・グループの議長を務めることとなった執行ワーキング・グループの新設に関する検討が行われました。また、6大監査ネットワークにおける監査品質の改善に関する進捗状況等をテーマに、各国監査監督機関等と積極的な意見交換を行うなど、国際的な協力関係の構築・充実に努めました。

## 2. 今後の課題

以上のような取組を通じ、審査会はこの1年、監査の品質向上と投資者の資本市場に対する信頼の向上等を図るため業務に取り組んできました。

一方、企業活動の多様化、複雑化、グローバル化が一層進展する中において、公認会計士監査の充実・強化に向けた取組の重要性は一層増しています。

審査会としては、このような状況に適切に対応するため、質、量の両面における事前及び事後の情報収集分析体制の強化や、リスクベースアプローチ等による検査の機能向上、情報発信の強化等を図り、監査事務所に対するより実効的な検査を実施していくとともに、審査・検査の結果を協会にフィードバックし、協会の品質管理レビューの一層の機能向上を公益的立場から促す必要があります。

また、多様な人々に公認会計士試験に挑戦していただくことが、結果として、会計・監査の質の向上や企業財務情報の信頼性の向上にも資するという考えの下、引き続き公認会計士試験の円滑な実施や受験者にとって有益と考えられる情報の積極的な発信に努めていく必要があります。

会計・監査は金融・資本市場を支えるインフラであり、言わば公共財であることから、会計・監査の専門家である公認会計士については、活動フィールドの拡大を図ること等によって資格の魅力を高め、優秀な人材を確保することが必要であり、金融庁や協会、市場関係者等と緊密に連携し、公認会計士資格の魅力の向上に向けた施策を講じていく必要があります。

さらに、企業活動のグローバル化が一層進展する中において、IFIARにおける我が国のプレゼンスを高めるとともに、各国当局との更なる連携強化やグローバル人材の育成・確保を図ることにより、我が国の会計・監査制度に対する国際的な信頼を確保する必要があります。

平成26年度は、第4期審査会の2年目として、こうした問題意識に立ちつつ、引き続き資本市場に対する信頼の向上等に向けて取り組んでまいります。

平成26年3月

公認会計士・監査審査会会長

千代田邦夫